



三好市総合学術調査の報告にあたって

徳島県立図書館長 町 田 豊 治

このたび三好市の総合学術調査結果がまとまり、その報告書として「阿波学会紀要第62号」を発刊するはこびとなりました。

この総合学術調査は、徳島県立図書館と阿波学会との共催事業となっており、その活動は64年という全国的にもまれに見る歴史を持っております。県民の皆様の関心と期待を受け、調査を毎年1市町村ずつ実施し、平成24年度の東みよし町「旧三加茂町」で県内旧50市町村を一巡しました。

そして、平成25・26年度の2年間、新たに阿南市から二巡目がスタートし、平成27・28年度には鳴門市において調査を実施して参りました。

さて、今回の平成29・30年度の調査は、三好市全域を前回の調査と比較すると共に新たな発見を目指しつつ、各班のテーマに沿って行いました。通年にわたる調査、平成29年度の集中調査は、8月8日の結団式を挟む10日間、また平成30年度の集中調査は、4月28日の中間報告会から10日間を、13調査班約100名の会員が参加して実施しました。この成果が三好市の地域環境の保全や文化財の研究、観光の振興等の地域活性化の一助となり、三好市の発展に少しでも貢献できれば、大変ありがたいことと考えております。

県立図書館におきましても、今回の調査研究内容を館内のレファレンスや郷土資料としても活用し、県民の皆様への情報提供を行い、地域資源の再開発や社会生活の向上に役立てて参りたいと考えております。また、これまで「阿波学会紀要」として刊行された冊子をデジタル化し、内容を検索することも可能となっており、県立図書館HP「デジタルライブラリー」から閲覧することができますので、是非、ご活用ください。

今回の調査に当たりまして、格別のご理解とご協力をいただきました三好市黒川征一市長をはじめ三好市教育委員会の関係者の方々、ご協力をいただきました地域の方々、また、猛暑の中、あるいは寒風の中、熱心に鋭意調査いただき、分析研究報告をいただきました阿波学会石田啓祐会長をはじめ阿波学会の皆様、紙面をお借りいたしまして心より厚くお礼申し上げます、発刊に当たりましてのご挨拶とさせていただきます。